

## 第1節 雨水浸透率

### 環境目標：「住みたい、楽しく美しい、歩きたくなるまち・春日井」 に関する数値目標

本市は、農地や山林を宅地開発することで、道路や公園など都市基盤整備を進め発展してきました。一方、車に依存した社会構造、大気汚染、水質汚濁、開発による緑の減少等の課題も多く見受けられます。

そのため、水と緑を身近なものとし、四季が感じられ、誰もが安心して暮らせるにぎわいとふれあいのあるまちをめざし、数値目標として「雨水浸透率」を設定しました。

#### 雨水浸透率：『水循環』に関する指標

水循環を表す指標の一つで、水害の防止、ヒートアイランド現象の緩和、地下水の保全に関わるものです。森林、農地の保全及び宅地・道路の浸透能力の向上を図ることによって、市域全体での雨水浸透率0.36以上の確保をめざします。

#### 目標設定の考え方

土地区画整理事業等による都市化の進展により、雨水が浸透しやすい農地等が減少し、宅地・道路等の不透水面が増えてきました。今後も、土地区画整理事業が予定され市街化区域の拡大も伴って、農地等が減少する傾向はしばらく続くと予想されます。これに対して、都市施設の透水化を促進し、農地等の減少を抑制することによって、雨水浸透率の低下を抑制します。

#### 算出方法

降った雨が地下に浸透する能力を表す指標です。日降雨量30mm程度の降雨時における雨水が地下に浸透する割合を示すものです。次の計算式で算出します。

$$\text{雨水浸透率} = \frac{(\text{土地利用別面積} \times \text{土地利用別基準雨水浸透率})}{\text{市域面積}}$$

一般に、降雨強度が高まるに従い基準雨水浸透率は低下する傾向にあります。例えば、1mmの降雨の場合はほとんどの土地で浸透し、土地利用別基準雨水浸透率はすべて1.00となります。東海豪雨のような大雨の場合は、ほとんどの土地で、降雨が浸透能力を超えるため、浸透能力以上の雨は100%流出することとなります。従ってここでは日降雨量30mmを想定し設定しました。

## 平成18年度の雨水浸透率

### ○土地利用別雨水浸透率

土地利用種別		基準浸透率	面積 (ha)	雨水浸透率
宅 地	建ぺい地	0.0	973	0.000
	その他	0.1	2,381	0.026
農 地	田	1.0	548	0.059
	畑	0.7	477	0.036
森林・原野		0.8	1,625	0.140
道 路		0.1	1,212	0.013
水面・河川・水路		0.0	358	0.000
その他		0.5	1,697	0.092
計			9,271	0.37

(0.366)

### ○透水性舗装における雨水浸透率

実施区分		基準浸透率	平成14～17年度 (ha)	平成18年度 (ha)	計	雨水浸透率
道路対策	歩道	0.7	4.39	0.79	5.18	0.000
駐車場対策	公共	0.7	0.25	0.00	0.25	0.000
公園対策	公共	0.7	0.00	0.02	0.02	0.000
計					5.45	0.00

### ○結果

雨水浸透率は、土地利用別雨水浸透率と透水性舗装における浸透率の和で算出します。平成18年度の雨水浸透率は0.37(0.366)です。